

## ウサギの呼吸器系疾患

### 特に「カゼ」のような症状が見られる例

ロップイヤーのモカちゃん、「2、3日前からクシャミをするので心配」と、連れてこられました。鼻の周りの毛も、少し汚れています。鼻汁を取って検査に出してみましたら、パストレラ菌という結果が出てきました。

「先生、学校のウサギがみんな病気みたいなんだ。目ヤニや涙が出ていたり、前股で顔をこすってばかりいるんだよ」と、飼育委員長の6年生のMちゃんは、とても心配そうです。ダンボールに入れて、みんなで運んで来たのです。母ウサギのシロちゃんは、顔をこすっているの、前股あ鼻汁でゴワゴワ汚れています。一緒にいる子ウサギのラムちゃんはだいぶ弱って、じっとして動きません。毛も逆立ち、ゴワゴワして、脱水症状が見られます。鼻カゼのようなので、スナッフルと呼ばれていますが、かなり悪い状態です。細菌のパストレラ菌が原因している場合は、同居のウサギに感染してしまいます。気になる症状のウサギがいるときは、すぐに隔離したほうが安心です。

#### ・スナッフル（カゼ、上気道炎）について

##### 症状 ・鼻汁とクシャミ

鼻腔・副鼻腔・のどなどで、細菌がふえて炎症が起きるので、鼻汁が出て、鼻の周りが汚れます。

##### ・前股の汚れ

鼻汁が出て気になるので、前股でこるすため、前股の毛が汚れて、ゴワゴワになることがあります。

##### ・呼吸困難

鼻がつまったり、肺炎にまですすむと、呼吸がしにくくなり、荒い呼吸になります。

##### ・結膜炎

涙や目ヤニが出たり、結膜が赤くなったり、腫れたりします。症状がすすむと、目の周りの毛が抜けたりします。

##### ・無症状

原因となる菌を持っていても、カゼの症状をひとつも出さずに病原体をばらまいているウサギもいます。

原因・呼吸器系疾患で、一番多いものは、ストレス（鼻カゼ）と呼ばれているものです。パストレラ・マルトシダという細菌によって鼻炎が起これると、パストレラ感染症ということになります。

感染のルートは、細菌のついた鼻汁に触れたり、くしゃみの飛を吸い込んだりして移っていきます。

治療法・抗生物質のほか、食欲増進剤・経口の高栄養食・輸液・点眼薬などを使いますが、パストレラ・マルトシダが原因の場合は、完治しにくい病気です。慢性化することが多いので、症状がとれても定期的に検診を受けましょう。

注意点・人の場合も同じように、「カゼは万病のもと」と言われるように、あなどっていると、首が傾く斜頭や、肺炎などにすすんだり抵抗力が落ちて、腸炎や脳炎に至る場合があります。食欲が落ちたりする前に病院へ行き、適切な治療を受けましょう。

#### ・冬にこそ、飼い主が注意すべきこと

暑さより寒さに強い動物と言われていますが、子ウサギ・高齢のウサギ・パストレラ症などの慢性の感染症を持っているウサギは、急激な温度変化が苦手です。

室内で飼っていたウサギお屋外にでしたりしないようにしましょう。

屋外のウサギには、すきま風が当たらないような工夫をしてあげましょう。また、室内飼いの場合、直接ストーブの風が当たって、低温やけどをしたりしないように、温度・風向に気をつけます。ヒーターのコードやマットをかじられないよう、カバーをつけることも必要です。

寒さがストレスとなり体の抵抗力が落ち、胃腸の働きが低下すると下痢を起こしたりすることもあります。

食欲や元気の状態など、いつもと少しでも違うときは早めに動物病院に相談しましょう。

## コラム

### スペイン学会

今日はちょっとニューバージョンで、スペイン世界獣医学会のエピソードです。

成田から飛行機を乗り継いで約14時間、食っちゃ寝のプロイラー状態から解放されて、やっとマドリッドにつきました。

ここで、しっかり者で頑丈な年下のBFが集団スリにぶつかり、70ユーロ(約八千円)あっさり取られました。こわい街とは聞いていましたが、彼が財布なら夫は命を取られるのでは.....と思ったほどです。

マドリッドで二件動物病院の見学に行きました。スペインではシエスタといって昼寝をする習慣のある国ですが、二件とも昼寝なしでがんばっていました(店は全部閉まるので

珍しいです。

一件目はスペインの獣医師会の本を作っている先生の病院で、5人の獣医師、7人の獣医看護師が一日約60匹の動物をみていました。「ウサギ……は？」と聞いてみたら……問屋さんで鳥の隣に並んでいます。ペットとしてはまだまだ……だそうです。よくシールバールライフプランで老後をスペインで、と言うけれど、我が家にとっては“タバコ天国 ウサギを食べる国”はムリかな。逆に「日本人ってイヌを食べる国民でしょ」と聞かれました。この勘違いはけっこう多いそうで、もちろん「ノン」と答えましたが、私たちが行かなかつたら、ずっとこれからも日本＝イヌを食べる人たち、だったようです。

二件目は救急のみを扱う病院で、女性獣医師でした、「女性の割合は？」とたずねたら、10年前は30%だったけれど、今は80%が女性ですって。どうしてかという、スペインでは、小学校からの成績がずっとよくないと、獣医師にはなれないからだそうです。ドキッ。この病院は24時間、かかりつけの先生が休診だったり、バカンスのときだけ紹介で診ています。つまり、ウィークデーより、土日と夏が忙しいのです。

ここでも「ウサギは？」と聞いてみました。集合住宅が増えてから、エキゾチックは増えているそうですが、は虫類、ヘビ、ワニ、クモが多いのだそうです。

それで結局、夫のアイデア商品、ウサギの切歯用カッターの英語・スペイン語バージョンは、集合の展示場で、ドイツ、パリ、トルコ、タイ、イギリス、カナダ、ウサギのいそいな国の先生に紹介してきました。

のんびりした国で、学校のディナーパーティ、夜八時半から馬のショー、十時から食べ始め、十二時に会長あいさつ、そのあとダンスパーティが明け方の三時四時……びっくりして帰ってきました。